

令和4年度第3回 伊那市総合教育会議会議録

◎招集年月日 令和4年12月19日（月）
◎開催日時 令和4年12月23日（金） 午後3時30分～5時
◎場 所 伊那市役所 庁議室
◎出席者 白鳥市長、笠原教育長、北原職務代理者、田畑委員、原田委員、黒河内委員
◎欠席者 なし
◎出席職員 馬場教育次長、宮下学校教育課長、北林生涯学習課長、早川市誌編さん室長、
小島社会教育指導員、福興指導主事、酒井指導主事、伊藤教育総務係長

1 開 会

馬場教育次長

定刻となりましたのでただいまから今年度第3回目の総合教育会を開催してまいります。始めに白鳥市長からご挨拶をお願いいたします。

2 市長あいさつ

白鳥市長

いよいよ暮れが押し迫り1年が終わろうとしています。この3年間、コロナによって対応が目まぐるしく変わった年でもありました。伊那市においては、タブレット端末をいち早く1人1台という体制を整え、またネットワークも最速のものを入れたりしている中で、ある程度は対応がしっかりできていると思っています。またWi-Fiの環境がないお宅にも、貸し出しをしながら対応するというようなことで1人1人漏れがない学習環境作りができたと思っています。

キャリアフェス2022は、今年で7年目です。また、3つの小規模特認校では特色ある学校作りをしており、さらには「暮らしの中の食」も脈々と息づいています。子どもたちの学びの場、環境作りをこの教育会議が中心となって考えていただき、また校長先生を中心として学校で実践していただい。

それぞれ差があるにしても方向はしっかりと同じ方向に向かっているという点では、伊那市は優れた教育をしていると感じています。そうした中で不登校、あるいは引きこもり、ヤングケアラー、は貧困といった今まであまり話題にならなかったようなこともしっかりと見えてきて、それぞれの対応についても担当課、担当の係をはじめとしてしっかりと取り組みも進んできているかと思います。現場へ足を運んで実態を調べて数を掌握しながら対応している、数は1回出したら変わらないということではなくて、日々変わってきますので、そうした目を常に持ちながら子どもたちの生活、またの様々なところに目配りをして対応いただければと思います。

今年最後の教育会議ですがテーマはいくつもあります。委員の皆さんから意見もいただきながら進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

馬場教育次長

ありがとうございます。続いて教育長からご挨拶をお願いします。

笠原教育長

今年度3回目の総合教育会議となります。子どもたちの学び、また日々の暮らしそして市民の皆さんの学びについて共に考えていただける機会、私どもにとって大変ありがたい場となって

います。今年は「学びを止めない」に「給食を止めない」という言葉を続けてそこにおきながら、学校、また教育が担っているその福祉の働き、ここを大事に考えて、そんなふうに思っていて取り組んでまいりました。そういう中で子どもたちに恵まれた学びの場を作ってくださっている網野さん、また山本さんにも参加いただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

子どもの育ちや活動の中において、また今日は教員の働き方にも関わってともに意見を交わす考え合う機会として大事にしていきたいと思います、そのように思います。どうぞよろしくお願いいたします。

馬場教育次長

ありがとうございました。それでは協議事項に入りたいと思います。
ここからは市長の進行でお願いいたします。

4 協議事項

(1) 中学生キャリアフェス2022の振り返りについて

白鳥市長

今年で7回目となったキャリアフェスです。今まで田畑委員さんが実行委員長を務められたのですが、今年から網野さんにバトンタッチということで良い後継につながったなと思います。

本日は、担当者皆からそれぞれ報告をしていただき、また感想をいただきたいと思います。最初に課長からお願いします。

宮下学校教育課長、山本キャリアコーディネーター、網野実行委員長

中学生キャリアフェス2022の実施状況について説明

白鳥市長

生徒実行委員、企業、先生ということでそれぞれいろんな話をさせていただきますけれども、実際参加した委員の皆さんから何か気になることや、意見がありましたら出していただければお願いします。

黒河内委員

委員として、また企業としても参加させていただきました。ご報告の中に、引率の先生についても、なかなか理解していただけない方がいるという意見がありました。事前学習の限りの認識だと思いますが、その原因は、例えば今年赴任して初めてだったことや、情報や体験がないこと、そもそもあまり必要性を感じていないことも考えられますが、そのあたりいかがでしょうか。

網野実行委員長

先生によっても意識に差があるのが実感です。各学校から実行委員に積極的に参加いただける方を輩出したいという思いはあります。今年は高遠中の先生が積極的に参加していただきました。それ以外の先生はほとんど参加されておらず、温度差があり、今年に限らず例年のことだと思います。

白鳥市長

事前の実行委員の皆さんの取り組みや、当日の企業の皆さんと生徒が関わる姿などの現場を見ずに必要ないと感じている先生がいるとすると、間違えだと思います。学校の容赦如何ですか。
教育長

実際そこに入って人に触れる、その場面が持っている価値に会った時に、評価は様変わりすると思います。この感想の中にもあるとおり、実行委員の子どもたちと他の子どもたちにも熱量の差があるように思います。やはり、あの場面に会って、子どもたちが大きく変わってくると思います。

昨年、安曇野市の教育委員会の先生方は見学に来られて、お帰りになるときに「私達がやろうとしていたキャリア教育の一步を間違えずに済んだ。」と言って帰られました。人とそこに生きている人、この地にあって尽くしてくれる人、そういう方の持っている貴重な在り様に触れることができる。そこで大きな認識、新しい見方が出てくるものと思います。

田畑委員

私が長年やる中で思うことは、キャリアフェスがお祭りになった瞬間に、教育指導が壊されることに対する抵抗感があると感じています。例えば、お祭りなので食べながら人の話を聞くこともある。それ自体がいかげなものか、また整列や服装など通常の生徒指導と実際の現場の自由度の差に違和感を持つ先生もいらっしゃる。

第1回目では、武田先生がフリーは自由だということで、実際に街で大人に出会うというシチュエーションをこの建屋の中でやっているだけなので、細かい生徒指導はお休みして、フリーで自由な大人との出会いを演出してくださいということで、美容師のブースでは色を塗ってもらえたり、お化粧してもらえたりするなど、通常は校内ではあり得ないことができた。始まる前のアナウンスが大事で、誰が何を言ってくれるかによって、その場の雰囲気や達成感、連帯感が生まれると思います。実行委員会の生徒が多忙になる、クラブに影響があることについては、募集の中でリーダーシップや責任感が鍛えられるのでクラブ活動だと思ってやってくださいというようなアナウンスが必要になると思う。この辺は毎年ずれが出てしまうと感じています。

白鳥市長

第3回から2年生全員集めて実施する際、各学校からは、「いろんな学校の生徒が集まってどっか行っちゃうと言っちゃったらどうするのか。」等の意見が出ましたが、実際には何もありませんでした。子どもをもっと信用しても良いのに、そういう質問があり、気になったことがある。参加する生徒は、みんな異口同音に良い経験ができたと言っており、その経験の場を先生自身にも見て欲しいと思います。学校の中の世界だけで子どもたちを見て、外へ行っても同じような目で見て判断しているとする、意味がないので次に向けて検討してほしいと思います。

北原職務代理者

実行委員では、学校の職員の中にも「実行委員がとてもよく頑張ってくれた。」とあります。実行委員の子どもたちの声は、非常に学んだものがあると思います。市報の1月号にも「全員が会場を出て行くまでずっと見つめていた」ことが書かれており、これは成し得た者でなければ書けないことであり、お聞きできることがあればよいと思います。

山本コーディネーター

実行委員会は、去年3月から始まり、合計13回集まり、12月に最後の実行委員がありました。最初は嫌だったとか先生にやれと言われた子もいたり、立候補して多数の中から勝ち抜いたっていう子もいました。最初はキャリアフェスって何か理解することからはじめて、事前学習で他の生徒にも伝えたり、どんな1日にしたいかを考えながら進めてきました。

10月頃には、泣きそうになったり、大人の実行委員たちに怒られたりする中で、最後にはあとき叱ってくれてありがとうございますなど、言ってやる子もいました。

中には、私達の知らないところで泣くような思いをした子もいたようですが、得たものは非常

に大きいと思います。

白鳥市長

実行委員会の今後の組織の課題について、中学生のメンバー、大人の役割に課題がありますか。

網野実行委員長

実行委員会に来てその空気とかその生徒の成長の様子、そういうものを体感しないとどうしてもわかりえない部分がありますので、5分でも10分でもいいからとにかく、あの生徒の様子を見に来ていただきたい中で、来ていただける方は限られてしまうということで、そもそもどういう人に参加してもらうかというところを考え直さなければいけないのかなと思います。

白鳥市長

音響のことは前々から改善ができてないのは事実です。良いものができても音響が悪くて聞こえなかったでは切ないので、なんとかしたいなと思います。

子どもたちにとって、子どもたちのことを考えて、子どもたちにとってプラスになっていることは言えると思います。そのプラスをもっと大きくしてあげられるように、周りの先生も含めて私達もどのように持っていくかということはよく話をしながら解決にあたりたいと思います。ありがとうございました。

(2) 学校部活動の地域移行について

白鳥市長

次に学校の部活動の地域移行についてお願いいたします。

宮下学校教育課長、酒井指導主事

学校の部活動を地域移行について説明

市長

クラブや学校の規模によっても違ってくるのでしょうか。指導する人がいれば土日に練習をしたり教えてくれたり、野球をやりたいがチームがない場合、他校で参加できるということになるのでしょうか。

酒井指導主事

いろいろな形が想定をされています。人数が足りないので試合に出られない場合、他の学校と一緒に合同チームをつくり参加をする形は既にあります。例えば長谷、高遠、東部で一つのブロックで1チーム作ることも考えられます。近隣にいくつも学校がある場合は、バスケットはA中学校、バレーボールはB中学校、野球はC中学校ということも想定をされています。定まった形が示されているわけではなく、地域の実情に応じていろんな形でやることはできますが、野球とバスケットも全く同じ条件でできるかについては難しいところもあり、課題をはっきりさせながら進めていく必要があると思います。

田畑委員

根本的に、クラブ活動はもう学校教育過程に入らない方向に持っていくということが決まっているということでしょうか。

酒井指導主事

その方向については県から示されています。

田畑委員

それに対して伊那市はどう考えていくか、どう寄り添うのかにはなと思います。土日の活動を切り離す話であれば、土日は部活動をやらない、どうしてもやりたい人は地域の部活動に所属して活動する、それぞれの地域のチームに入る、それを受けてくれるチームがなければ考えるしかない話になると思います。

伊那市のスタンスについて教育委員としても聞かれたときに、どんな方向で考えているのか考える必要があると思います。部活動は人間形成が育まれることもあると思います。時間はかかるかもしれませんが、伊那市としてのスタンスも説明できるようにしていく必要があると思います。

白鳥市長

いろんな形を想定しながら検討するということですね。

笠原教育長

部活動の地域移行について、それが移行した先は部活なのかどうなのか、土日にやってるそれは部活なのかどうなのか、ということさえ、はっきりしなかった中で、ようやく9月末に「移行後は学校の教育活動ではありません。」ということが文字で示されました。それが一つのゴールの形であり、ここから話が始まると思っています。

ここから課題を整理していく中で、例えばお金や指導者の確保等の課題があり、これからはしばらくの間はその課題整理をしながら、これから来年、再来年は実際どうなるんだろうというようなあたりを考えて検討をしていく、そういう2年、3年になると思います。

白鳥市長

受け皿があればできますが、受け皿がない自治体もいっぱいありますよね。この間JR東日本の皆さんとお話した時、都内のある区ではJR東日本が、野球もバスケットも全部やってるので、問題なく受けられますという話がありました。それはうらやましい話だと思います。

北原職務代理者

かみいな産学官交流会があり、部活動で参加させていただいた。私以外の方は一般の方で、地域でスポーツを一生懸命やっており、意欲のある方々でした。受けできるけれども、全ての種目をやることは難しいので、上伊那南部であれば「南部だけ一つのブロックにする」、「伊那市ならできるのでは」など、伊那市にしても難しいんですけども、そうした話がありました。

土日だけやってみて、平日は学校でやればいいということはあると思いますが、保護者の負担が出てくることは大きな話題になっています。

枠があればいいかといえそうではなくて、子どもたちの目的、また学校では人間形成、そういった目的があるので、型だけ作ってもその部分が抜けたら意味がなくなってしまうことから、それを大事に検討する必要があると感じます。

黒河内委員

国の方針はこれからはっきりしてくる中で、地域を巻き込んで難しい課題ですが、近いところでは飯田市が非常に早くから取り組み、一つの答えを出しています。例えば、国体に出たり、うまくなりたかったら、松本などのチームに行ったりしていると思います。

そこまでではないけれども、生涯にわたってスポーツを楽しめるというような意味での受け皿も必要で、飯田市の場合は全市型競技型スポーツスクールでの市がスポーツ協会と一緒に取り組んでいます。普段サッカーをしている子は、冬は休みにしてバレーボールでバスケットをするなど生涯スポーツとしての考え方で取り組んでおり、地域移行をきっかけにして市民に対してスポーツや文化活動を提供する、大きい話から考え直しています。

こういう検討は、この総合教育会議にふさわしいテーマであり、いろいろな情報を集めて進めていくことができれば良いのではないかと思います。

白鳥市長

これからの話ではありますが、学校を切り離す方向に向かっているので、部活動毎にどうするのか、地域毎にどうするのか、これからの議論になっていると思います。

私の経験として、中学時代に野球をやる中で野球を知っている先生のかは面白かったのですが、その先生が転校して違う先生がきたら練習にならないことがありました。先生も困るし、子どもたちも困ることもあります。時々テーマにしてやっていきたいと思っています。

(3) 学校における働き方改革推進の取組について

白鳥市長

学校における働き方改革の推進についてということで、なかなか答えを出しにくいというところありますが、テーマとして挙げさせてもらいました。宮下課長の方から説明をお願いします。

宮下学校教育課長、福與指導主事

学校における働き方改革推進の取組について説明

白鳥市長

ここまで学校の中でもどうしたらどういう理由で業務が過剰になっているかということ进行分析してあるので、こうしたことを確実に潰していくことだと思います。私も見ていて思うのは、苦情に対して四六時中対応するケースがあり、これは精神的にもつらいことだと思います。こうした事例に対応するため、この前、長谷川先生にお願いして、講演いただきました。最後は法的に弁護士がきちんと対応していく、それを早めに何か問題が出る前に弁護士に相談できることで、先生にとっても安心だと思います。

また、C4t hを入れたことで効果が出たことも、非常にいいことだと思います。また、AIドリルを入れたことによって、授業の内容も上がって効果もあるし、先生の教材の作成も省けるだろうし、部活動を切り離すということになれば時間も省けるだろうと思います。

もう一つ、学校登山については、先生にとってかなりの負担であり、登山経験がない先生だと「わかりません」、「登れません」という話になります。先生たちにその責任だとかも全部負わせるのではなくて、それはもうプロのような皆さんと一緒にサポートしながら行くようにすると登山も楽になるだろうし、そうした一つ一つのことを積み上げて対応して解決策を探っていくことが大事ななと思っています。

先日、教育長とお話したんですが、フィンランドでは、大体20人、30人の学級に先生が2人で、わからないと必ずそういう子を教えながらいく、それでもわからないと専門のクラスでしっかり教えて理解してから戻すを繰り返していくので、わからないまま進むことはありません。

伊那市ではオンラインで授業できてるので、例えば高遠北小学校の5年生の算数と長谷小学校5年生の算数を同時に、長谷小学校の先生が授業をして高遠北小学校の先生も見ていく。2人の先

生がついて授業を進めることができないかな、という話をしました。一番の目的っていうのは理解度を高めるってこともあるのですが、小規模な学校を無くさないっていう、小学校をつぶさないところも一つの目的でもある。先日も辰野町の川島小学校が創立 150 年の年に廃校と本当に寂しい話だと思いますが、やり方によっては十分できるのではないかなと思います。先生の働き方改革、またちょっとご意見をいただければと思います。どうでしょうか。

田畑委員

資料の見方によって、月当たり平均の時間外労働は問題のないレベルとなっている。この数字が独り歩きすると、もっと働いてよという数字に見えてしまうが、実際はどうですか。

福與指導主事

個人差があるが、教員の働き方改革は、小学校の教員で 80 時間、中学校は過労死ラインを超えていることから始まっています。この数字については、見る側としてはそこをしっかりと見ていかないといけない数字だなと思います。

全国的に一つ大きな課題は教頭職であり、超過勤務はすごい状況にあります。伊那市内もそうですが、教育雑誌では「教頭先生の忙しいは諦めない、そのために何ができるんだろう」という特集がありました。

ひと昔前は、学校現場は早く帰ることがいけない雰囲気があり、子育て中の先生は定時を過ぎているにもかかわらず「申し訳ない。今日はどうしても子どもを迎えに行かないといけない。」等の言い訳をしながら、帰してもらうのが当たり前だった時代もあります。

この数字が本当に真実なのか、しっかり私達が見ていく必要があります。

白鳥市長

伊那市版の先生方の働き方改革、これを目標に決めながら進めたいと思います。資料ではアルファベットで管理しているので、負荷がかかっているところから改善するやり方で進めていくとかなりの成果が出ると思います。今後のテーマに入れて検討していきたいと思います。

(4) その他

白鳥市長

今日は問題提起と課題を明確化しながら進めさせていただきました。全体を通じて何かございましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。ありがとうございました。

5 閉会

馬場教育次長

長時間ありがとうございました。それでは、以上をもちまして、今年度第 3 回伊那市総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。